

専門職の在職していない場合の保健指導の実施に関する研究

高野 陽・青山旬・井原成男^{*1}・水野清子^{*2}

要 約：母子保健サービスの市町村移譲において、最も大きな問題は専門職の確保が困難なことであることが指摘されている。栄養、歯科、心理領域の専門職の在職していない地域の保健婦のこれらの領域の保健指導の可否について調査した。一般に、保健婦の保健指導の能力は高く、特に、1歳6カ月児健康診査に関連する事項についてはよくできるようであるが、疾病異常に関する事項に関する指導はできない場合が多い。

見出し語：保健指導 専門職 栄養士 歯科衛生士 心理

研究方法：母子保健サービスの市町村移譲に際して、これまでの調査研究で明らかにされた最も大きな問題の一つは、専門職の確保が困難なことである。各種の健康診査や保健指導における専門職の存在の有効性は否定できない。これらのサービスを担当する職種のうち、栄養、歯科、心理等の関係の職種が在職していない場合の効果的な保健指導の実施と支援体制のあり方を明らかにし、実際に応じた指導の手引きの作成を図る。

研究方法：全国母子保健センター連合会の会員である市町村に調査表を配布し、栄養士、歯科衛生士、心理関係者の在職していない市町村を選定した。さらに、その中から97市町村を無作為に抽出し、それぞれの市町村に属する保健婦に対して質問用紙

を送付した。

その質問用紙には、栄養関係、歯科保健関係、心理及び発達関係に関する妊娠中、産後、乳児期及び1歳から3歳頃に、保健指導の現場で遭遇しやすいと思われる事項を選択し、これらの事項について、各市町村に所属している保健婦を基準にした指導の可否について質問した。この場合、指導の可否については、「十分にできる」「まあまあできる」「ほとんどできない」に区別した。

結果及び考察：回答は82市町村から得られ、回答率は85%である。全般的にみれば、市町村の保健婦の保健指導に関する能力はかなりあるものと窺うことができる。しかし、今回の調査では、具体的な指導内容や指導技術を調査していない。それ故、

^{*1}所属：国立公衆衛生院

^{*2}所属：日本総合愛育研究所

保健婦の回答に挙げられた指導が、実際の保健指導において不安解消や問題解決にとってどのように役立つものか、あるいは保健婦の思っている指導が正しいものかについての確認はできないが、専門職が在職していない地域の保健婦はそれなりに問題解決を図る必要があることは否定できないので、それ相当の能力をもっているとも考えられる。

今回の調査では、生活を基盤として指導すべきもののほかに、疾病異常についても指導項目として加えてある。その場合、医学的、または医療を視点において指導する必要があることはいうまでもなく、保健婦としては当然このことは十分に理解されているものと期待したい。

(1) 栄養関係

「アトピー性皮膚炎の乳児の食事指導」を除き、「まあまあできる」という回答が最も多く、「つわりのとき」「鉄欠乏性貧血」「妊娠後期」の食事指導、「離乳」に関する指導、「おやつの多い子」の指導については比較的「十分にできる」ものの割合が多い。

「アトピー性皮膚炎の乳児」の指導は「ほとんどできない」ものが半数を占めている。ここ数年間、この問題に母親たちの心配が集中していた。しかし、個々の事例を念頭においたときには、具体的な「食事指導」は非常に困難なものであり、今回の保健婦の回答はむしろ妥当なものとも言える。

幼児期の食事に関しては、多くの点で、精神発達や生活実態との関連で指導する必

要がある。単に、栄養摂取を中心に指導しては意味がないことから、今回の回答にこの点が十分に考慮されていることを期待したい。

(2) 歯科関係

1歳6カ月児健康診査の実績に基づく結果が得られたといえる。特に、「う歯」予防に関する指導は「できる」割合が強い。今日、話題になることの多い「咀嚼」「嚥下」に関する事項についてはむしろできない状態にある。歯科領域の指導では、指導可能な事項と不可能な事項との格差が大きいに感じられる。

舌小帯に関する相談は、母乳保育との関連で多いものと思われるが、小児科学会や小児保健協会でも無意味な切除を戒めるように指導している。にも拘らず、一部の助産婦によって、母乳分泌推進に対してこの処置を指導するものがあるので、十分に注意することが必要であろう。特に、新生児訪問指導において適切な対応が望まれる事項である。

乳児期においては比較的多い「上皮真珠腫」「地図舌」については、これを知らぬ保健婦も多いのではなかろうか。母親を心配させる事項であり、正しい知識をもっておいてほしい。また、歯科領域としては専門的事項とも言えないものについての基本的な知識が不足しているように思われる。

(3) 発達・心理関係

「言語発達」「指しゃぶり」に関する事項の指導は比較的できているのは、日頃、遭遇する機会が多いためと思われる。一般に、1歳6カ月児を中心とした問題につい

ては可能な事項が多い。しかし、3歳児に見られることが多い事項については、必ずしも適切な指導が可能であるとは言えないのは、経験不足が誘因となっているとも考えられる。ここに挙げた事項は、保健婦においても基本的な指導はできるようにしておきたいものであり、「重度」なものに対しては、専門職へのバトンタッチが必要となろう。その見極めが可能になっていることも保健婦としては重要な態度であろう。

まとめ：一般に、保健婦の保健指導の能力は高い。しかし、指導の細部に至った時にどのような状態になるかが重要なところである。今回はその点の追求はしていないので、「できる」と本人たちが思っていることに落とし穴が存在していることも予測できる。それ故、ここでの「できる」という回答を鵜呑みできず。手引きが不要であるとは言えない。むしろ、専門職に換わって基本的な指導を行い、その指導を通じて、問題の重要度を判断して、専門職の専門的指導へ譲る態度を育成することも必要である。今日の多様化した育児態度と育児不安に対応するためにきめ細かな指導所の作成が急務となろう。

専門職がない市町村における保健指導に関する調査集計

※ 調査対象：97件。 回答：82件。 回収率：85%。

I. 栄養関係 (回答：82件)

(1) 妊産婦の食事指導

(%)

No.	項 目	十分に出来る	まあまあ出来る	ほとんど出来ない
1	「つわり」のときの食事指導	24	59	17
2	鉄欠乏性貧血の栄養指導	29	57	13
3	妊娠後期における食事指導	24	54	22
4	母乳分泌を促すための食事指導	18	52	30
5	妊婦の体重が急に増えたときの食事指導	17	59	24

(2) 離乳期

(%)

No.	項 目	十分に出来る	まあまあ出来る	ほとんど出来ない
6	各時期を通しての離乳の進め方	33	57	10
7	各時期の適切な食品とその調理形態	23	61	16
8	下痢をしやすい乳児の食事指導	6	55	39
9	アトピー性皮膚炎の乳児の食事指導	8	42	50
10	フォローアップミルクの与える必要性についての指導	10	50	40

(3) 幼児期

(%)

No.	項 目	十分に出来る	まあまあ出来る	ほとんど出来ない
11	幼児期の特性を踏まえた食事指導	17	60	23
12	幼児の食事の適量について	17	62	21
13	「好き嫌い」をする子についての指導	17	60	23
14	食べる意欲のない子についての指導	12	50	38
15	「遊び食い」をする子についての指導	17	60	23
16	牛乳ばかり飲んでいる1歳6か月児の食事指導	22	51	27
17	おやつばかり食べて食事量の少ない子についての指導	24	60	16

II. 歯科関係 (回答：82件)

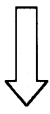
(%)

No.	項 目	十分に出来る	まあまあ出来る	ほとんど出来ない
18	妊娠中のう歯や歯周疾患予防などについての指導	22	60	18
19	乳児の上皮真珠についての指導	7	22	71
20	8か月でまだ歯の生えていない乳児についての指導	18	44	38
21	乳歯が生え始めたときの手入れの指導	35	55	10
22	地図舌についての指導	7	17	76
23	保護者が母乳哺育のために舌小帯の切除を希望している場合の指導	5	41	54
24	1歳6か月児健診におけるう歯予防の基本的指導	48	46	6
25	1歳6か月頃の歯磨きの指導	38	51	11
26	2歳前後の反対咬合についての指導	9	37	54
27	3歳児に適した歯ブラシと歯磨きの指導	24	52	24
28	3歳児の指しゃぶりと歯並びの関係についての指導	17	61	22
29	う歯予防にフッ化合物の塗布の必要性についての指導	29	46	25
30	咀嚼の拙劣な幼児についての指導	7	44	49
31	食べたものを口のなかに溜めて呑み込まない幼児についての指導	5	39	56

III. 発達・心理関係 (回答：82件)

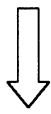
(%)

No.	項 目	十分に出来る	まあまあ出来る	ほとんど出来ない
32	1歳6か月頃で人見知りが非常に激しい子についての指導	16	56	28
33	よく転ぶ1歳6か月児についての指導	14	55	31
34	1歳6か月頃の表出言語のみの遅れについての指導	23	51	26
35	1歳6か月過ぎで「おとなしい子」といわれている場合についての指導	20	51	29
36	1歳6か月児健診で非常に「怖がり」な子についての指導	15	46	39
37	3歳頃の幼児の指しゃぶりに関する指導	26	56	18
38	3歳児の性器いじりに対する指導	18	56	26
39	友達遊びより独り遊びを好む3歳児についての指導	16	46	38
40	母親から離れられない3歳児についての指導	20	50	30
41	3歳で「かんしゃく」のひどい子についての指導	11	45	44
42	よくよその子を叩いたり、噛み付いたりする3歳児についての指導	11	46	43
43	他人の前では話さない3歳児についての指導	8	45	47
44	退行現象の認められた3歳児に対する指導	6	38	56



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要 約:母子保健サービスの市町村移譲において、最も大きな問題は専門職の確保が困難なことであることが指摘されている。栄養、歯科、心理領域の専門職の在職していない地域の保健婦のこれらの領域の保健指導の可否について調査した。一般に、保健婦の保健指導の能力は高く、特に、1歳6カ月児健康診査に関連する事項についてはよくできるようであるが、疾病異常に関する事項に関する指導はできない場合が多い。